

# 上関の里山・里海

春季を中心に

生物文化多様性研究所

安溪貴子・安溪遊地

# 瀬戸内海の西に位置する「周防灘」は 「瀬戸内海の内原風景」を残している



長島 田ノ浦 祝島が見える 2023年5月



# 田ノ浦の浜をのぞむ (2001年)

鼻繰島

祝島



# 瀬戸内海 アジアで最大の内海



二つの出口を持ち、灘と瀬が連続する内海  
陸からの冷たい水、豊後水道を黒潮が入る

加藤真2011年3月10日 日本生態学会シンポジウム



# 「奇跡の海」を育てた里山の暮らし

- 周防灘は高度経済成長期以前と変わらない  
里山に囲まれた里海がある
- 山口県の瀬戸内海は、工業地帯はあるが、その東西では美しい海が守られた。(例：徳山湾の水銀汚染にはいち早く対応※)
- 瀬戸内海では、海砂の採取をさせてこなかった山口県の方針(下関市蓋井島近海のみ採取)
- 汚染に対する地域の意識の高さと速やかな行動。

※環境白書

<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/honbun.php3?kid=149&serial=1511&bflg=1>

# 日本周辺は海の生物多様性が高い

- ・先進国の中で群を抜いた「海の生物多様性」の高さ（ヨーロッパよりも、アメリカよりも、中国よりも）
- ・海の生物多様性の危機の評価が十分ではない（海の生物のレッドデータブックが未編纂）
- ・海の生物多様性は日本にとってかけがえのない最後の資源



# 東アジアの原発

加藤真2011から



ここは生物多様性ホットスポット

新井章吾2010

# 長島周辺の自然の特徴

- ・磯や礫浜の生物の多様性(ミミズハゼなど)
- ・豊かな海藻群落(スギモク、ヒジキ、アカモク、ヒトエグサなど)
- ・周防灘固有の生物の存在(ヤシマイシンなど)
- ・清浄な海域にしか生息できない生物の豊産  
(カサシャミセンなど)
- ・砂堆の存在(ナメクジウオの豊産)
- ・カンムリウミスズメ・ウミスズメが換羽し、年中見られる
- ・冬鳥アビ類の飛来
- ・スナメリの繁殖
- ・タイをはじめとするゆたかな水産資源

かつて豊かだったころの瀬戸内海の生物多様性を色濃く残している、生物多様性のホットスポット



# コンクリート護岸がない海岸林

75%も残る自然海岸（瀬戸内海は平均21.4%）



護岸や道路によって  
海と陸とのつながりが断たれてしまった  
海岸が多い瀬戸内海のなかで  
アカテガニの産卵  
クサフグの産卵などが見られる

2023年



# 長島の多様な土地利用

シイの常緑林、アベマキ・コナラの薪炭林、竹林、海岸林、松林、果樹園など人が利用してきた森



2023年4月2日



# 田ノ浦の砂浜と岩礁海岸・台の鼻



2023年4月1日



# 山桜咲く田ノ浦

仮棧橋が見える



正面の森が  
神社地

2023年4月2日



# スナビキソウに飛来したアサギマダラ: 田ノ浦には毎年



2000kmを旅する蝶

成虫が、  
春は、スナビキソウ  
秋は、フジバカマの仲間に多い  
のは、蜜に含まれる  
アルカロイドを摂取することで  
攻撃されない。  
これはオスには性フェロモンで  
もあるという。

幼虫は、ガガイモ科の  
・オオカモメヅル  
・ガガイモ  
・イケマ  
の葉を食べて育つ。  
葉の有毒物質を体に貯めて、  
攻撃を防ぐ。



ハマエンドウ  
(マメ科)



ハマナデシコ  
(ナデシコ科)





# イワタイゲキ(岩場の花)



田ノ浦でも。長島一帯、祝島でも見る。

広島県では、  
準絶滅危惧種  
「自然が残る厳島でさえ  
20株あまりに  
なってしまった」  
イワタイゲキは  
瀬戸内海国立公園の見張り番

↑ 故郷の海

<http://www.chugoku-np.co.jp/kikaku/umi/24.html>

# ツクシキケマン(ケシ科) 里山の花



キケマンと似ている。  
見分けかたは、  
果実が  
ツクシキケマンは、  
1列に並び、数珠状に  
くびれる。  
キケマンは、  
2列に並びくびれない。

別種の  
ムラサキケマン(花が赤紫色)  
も咲きます。



砂浜のコウボウムギ



岩場のヒゲスゲ





# 海岸林もよく残っている

海側から ヒトモトススキ ツワブキ トベラ ハマヒサカキ



2023年4月1日



# 4月はじめ落葉樹林の中は明るい



アベマキ  
コナラ  
クロキ  
ヤブニツケイ  
ヤブツバキ  
など。  
5月には  
暗くなる

2023年4月1日



# キンラン



農道の明るい所に  
里山の植物

キンラン、  
ギンランなど  
絶滅危惧種



# ジュウニヒトエ (シソ科) 分布が限られている種





# ヤマハコベ (ナデシコ科)

日本固有種 分布が瀬戸内海周辺に限られている





# ビロウドカジイチゴ

別名ハチジョウイチゴ

果実はオレンジ色 食べられる





# フデリンドウ (リンドウ科)

早春の里山の花

花の直径1~1.5cm





# キランソウ (シソ科)

別名: デゴクノカマノフタ 里や里山のみちばた





コバノ  
タツナミソウ  
(シソ科)

タツナミソウの仲間も  
里山の道ばた。  
タツナミソウは種類が  
多い





# マムシグサ

サトイモの仲間  
暗い林内で花を咲かせ  
赤い実を  
実らせる

他に、  
ナンゴクウラシマソウ  
ムサシアブミも  
この仲間





# ムサシアブミ

(サトイモ科)



←花

# ナンゴクウラシマソウ

(サトイモ科)



花→



# ビャクシンの天然分布 台の鼻



かつては  
ここも、  
里山として  
人々が手を入れた  
跡があります  
(報告書参照)



# 瀬戸内海の原因風景を未来に手渡すには

- 1980年代に放棄された耕地。
- 以来、農薬も除草剤も撒かれていない。  
ネオニコチノイドなど農薬の影響がない海。  
里山や田畑を通ってきた水が、海底から吹き出す田ノ浦の海の透明度はたいへん高い。
- 水田、畑、薪炭林、竹林が、陸だけでなく海の生物多様性を支えてきた。
- 2010年頃は、田んぼの跡が明確、今も石垣が残る。田小屋もあちこちにあった。
- 里山 は人と自然の共存の姿
- 人手が入るのが前提の里山の維持は？



# 瀬戸内海の内原風景の中で暮らすとは？

- ここにどんな暮らしを描けるのか
  - 農業 田んぼ、畑、…化学物質は？
  - 漁業 どんな漁業？ 海藻も、貝も…
  - 林業 果樹園？ 薪炭林？しいたけ？
- そもそもどんな暮らしがあったのか？
- お金や利子で暮らしを測る時代の終わりに  
どんな暮らしの可能性を語れるのか？  
(生物文化多様性の大切さ)
- 情報の発信の大切さ
- 外とのつながりの力



ヤシマイシン近似種の卵が見つかった！







工事の柵の  
向こうに  
キンランが  
咲いていた

手入れすれば  
里山環境が  
回復できる



# 縄文時代から の遺跡

「連続的な利用が  
わかる遺跡は少な  
い。注目もされず  
にこのままでは破  
壊されてしまう」と  
考古学の友人



2009年4月18日



# 朝鮮通信使と上関

- 「朝鮮通信使のユネスコ記憶遺産登録」2017年10月31日
- 上関町超専寺の「朝鮮通信使船上関来航図」が関連資料として登録
- 「朝鮮通信使 上関到来まつり」2018年11月19日
- 通信使に出した「おもてなし料理」から、当時の海の幸・山の幸を復元することができそう。



[http://enchiren.com/documents/map\\_none/%E6%9C%9D%E9%AE%AE%E9%80%9A%E4%BF%A1%E4%BD%BF%E4%B8%8A%E9%96%A2%E6%9D%A5%E8%88%AA%E5%9B%B3](http://enchiren.com/documents/map_none/%E6%9C%9D%E9%AE%AE%E9%80%9A%E4%BF%A1%E4%BD%BF%E4%B8%8A%E9%96%A2%E6%9D%A5%E8%88%AA%E5%9B%B3)

・祝島の「神舞」はもちろん



ツバメは人が田をつくることを  
信じて毎年やってくる  
「人と生き物の強い依存関係」

## 生物文化多様性



「里山」は  
生物文化多様性  
そのもの



ご清聴  
ありがとうございました

謝辞：

加藤真さん、佐藤正典さん、はじめ、  
日本生態学会要望書アフターケア委員会のみなさん、  
長島の自然を守る会のみなさん